

(端裏書)

「(12)」

乍恐御返答申上口上之覺

一 大坂海部堀川町津国屋伊右衛門手前より後藤屋五左衛門
 先年銀子借用仕返弁不埒ニ付右伊右衛門より御訴詔
 申上候ニ付先達_而私共御取調被仰付候得共手船
 之支配ニ付右伊右衛門手前より之借銀一錢も無之段野
 波屋助次郎より申聞候間其段御返答申上置候處
 亦々当夏右伊右衛門より及出訴申上候、則野波屋助次郎
 後藤屋五左衛門儀対決被仰付、依之私義も会所へ
 罷出右両人之詰勿始終承候處近年引纏候算
 用及決白右之借銀手船之支配ニ相拘り候段相違
 無御座候様奉存候、然ル上_者早速右五左衛門_{ニ而}も登
 坂為仕内済之手当テ仕度奉存候趣其節私并
 助次郎義も御請書差上置候得共其後助次郎儀
 一向頓着不仕奉恐入候、元来御用船相勤候儀_者
 助次郎と私義両人之發起ニ御座候處助次郎儀
 鳥取表へ名前不相知もの故表向者私忝人之願
 主_ニ被成素万事助次郎へ取捌相任せ置候間
 大数之拝借米_者不及申上、其外莫太之他借仕候_而
 船代之足銀_ニ其俚引渡候處後日至右之五左衛門より
 差出候目録と助次郎より船代銀等申聞セ候とハ大_ニ
 銀高齟齬寔以助次郎義_者縁相之もの_ニ御座候_{へ者}
 御用太切_ニ実正之取作舞呉候様奉存候處船代銀
 之辻と拝借米并当時私引受_ニ罷成候他借之銀
 高と引競候得_者格別助次郎より之出銀も無御座様
 相見へ申候、然ル處纔_ニ両三年御用相勤助次郎儀
 至極及困窮難渋之体_ニ申立御上納之品不埒_ニ仕
 置私へ当惑為仕候程之儀_ニ御座候得_者銀高之他借ハ
 勿論初年より一向打捨不埒仕候儀_者助次郎最初より
 作略而已を相考其身より_者出銀不仕様取計之心
 組と奉存候、剩支配人共_{へ者}他所_{ニ而}借用銀等為仕
 度々御役所へ奉掛御面倒義も是全以助次郎
 不取作舞之儀千万奉恐入候、且又此度右之差別
 片時も早く速_ニ内済仕候様稠敷被仰付候趣

私儀^者幾重^ニも奉畏候得共助次郎儀自分勝手之
御返答申上候由、尤九右衛門代五左衛門と名前有之候間
何様私より及差別候様被仰出候段奉畏候得共乍恐
奉申上候、助次郎と私義^者御手先之奉蒙御裁許候
もの^ニ御座様得^者万端宜被為聞召分被為下候様
奉願上候、誠以助次郎^江ハ最初より大数之拝借米
并莫太成他借銀等迄も船代銀之手当テ^ニ引渡
置候處両品彼は諸算用不埒仕私忝人之及潰候
様^ニ取作舞置其必至之難洪之体^ニ申立一向
何も頓着不仕候縱令手船不運^ニ御座候間御米積
請候^而も助次郎徳用^ニ仕候訳も無御座哉^ニ者奉存候
得共蒙御蔭候時節^ニ至候ハ、其身ハ格別之出趣
も不仕手振同様^ニ而徳分^ニ者決^而損失不仕様之才覺
と奉存候、右等之不実之致方^ニ御座候殊更先達^而
御取調之節助次郎儀も内済之御請書差出置候
儀^ニ御座候間只今^ニ至如何御断申上候共元来津国屋
伊右衛門手前之差別^ニ不限莫太成上納之筋も私忝人
之引受^ニ罷成候上^者御愁訴申上助次郎所持之品々貸
屋賃等迄も私^江引受上納之足銀^ニ仕度奉存候、尤
此儀も追^而乍恐御歎申上度奉存候、何様右懸り合之
銀子兩人より内済可仕道理^者度々御取調之上及明
白候事^ニ御座候間幾重も助次郎^江稠敷被
仰付被為下候様奉願候、乍恐右御返答申上度
如斯御座候、以上

大谷九右衛門（印）

寛政九年巳九月日

村瀬新右衛門様

伊丹代助様